

平成 28 年 3 月 23 日

平成 27 年度東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書

1. プロジェクト名

富山妙子画伯コレクション—第三世界と Narrative Art

2. 申請研究者

(氏名) (所属・役職) 真鍋祐子 情報学環／東洋文化研究所・教授

3. 研究期間 平成 26 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日 (5 年間)

4. プロジェクトの趣旨、全体計画 (400 字程度)

申請者は 1921 年生まれの画家・富山妙子氏より所蔵資料の寄贈を受け、その整理と一般公開の為にデータベース構築を目的として、本プロジェクトを推進する。

炭鋳・韓国民主化闘争・慰安婦等を題材とした作品群が、主に 70 年代以降、トランスナショナルなネットワーク (キリスト教、アムネスティ等) を通じて欧米経由で国際的な人権運動に与し、非合法的に東南アジアやアフリカ諸国に流出したことで当該国の民主化を促す等の **narrative art** の役割をはたした点に焦点をあてる。氏の作品がコラージュされた各国の装丁本、冊子、ポスター、チラシの他、インタビュー記事、作品の伝播に伴い生じた各国知識人との交流に関わる手紙等の一次資料、取材旅行で撮影された写真等 (60 年代の中南米、オリエントを含む) の民族誌資料、制作のベースをなす文献等を取り扱うことで、第三世界におけるアートを通じた民主化プロセスを解明する。

5. 今年度の研究実施状況 (400 字程度)

富山氏が自宅に所蔵する資料のうち、約 8 割に相当する 419 点を整理し、目録にまとめた。内訳は、富山著作・装丁本など 45、参考図書 262 点、美術関連書籍 64、一次資料等ファイル 48 となっている。韓国民主化運動を中心とした富山作品の各テーマに焦点をあてた昨年度に対し、今年度は 70 年代以降の創作活動において **narrative art** という美術理論の礎となった 50~60 年代の炭鋳、中南米、オリエント等でのフィールドワークと創作活動の連関性について、美術史、思想史等の視点から整理を行うと同時に、富山氏の人生の初期に経験された満洲での植民地体験や、その後の幅広い読書体験等も視野に収めることで、富山作品の理念がいかに構成されてきたかに力点を置いた。

また、すでに前年度で整理を終えた韓国民主化運動関連資料のデータベース化を進めるための、全資料のデジタルデータ化はほぼ完了することができた。

6. 今年度の研究成果の概要（400字程度）

受け入れた資料は、①参照文献・資料、②人的交流（手紙、写真）、③本や冊子の装丁、チラシ、ポスター、インタビュー記事（日、キューバ、チリ）等、④作品図録、⑤富山氏の作品を用いてのスライド、映画、⑥50～60年代の炭鉱や中南米、オリエントへの取材旅行における写真、スケッチ、⑦レコード、CD等の音源である。これらの資料は、言語別では日本語、韓国語、英語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語等、国別では日本（在日朝鮮人を含む）、中国（旧・満州を含む）、韓国、ロシア、アメリカ、フランス、ドイツ、チリ、キューバ、ブラジル等、領域別では美術理論、画集、ポストコロニアル、フェミニズム、民俗、歴史、政治思想、ノンフィクション、詩・小説その他となっており、多層的・多面的な経験と知識に基づいて形成された理念や信念が、いかに一画家の作品世界を構成してきたかが明らかになった。ただし、これらの資料を整理して目録にまとめることが今年度の研究実施計画であり、まだ具体的な研究成果の発表には至っていない。それは来年度以降の実施計画へと引き継ぐことになっている。